

■青木周蔵 外交官。日本が国際社会に進出する時期に、主要国の公使を歴任、対等条約の実現などで重要な役割。

あおきしゅうぞう

天保改革終・1844=

長門国厚狭郡生田村で、長州の村医三浦玄明の長男に生まれる。幼名は団七。

阿部正弘首座1845= 1歳：

ペリー来航・1853= 9歳：

幼くして学を好み、

福原越後領内の村学校晩成堂、

桜田門外変・1860=16歳：

豊後中津の手島仁太郎の塾で学び、橋本忠次郎に謹皇を教えられ、福沢諭吉にも傾倒。

生麦事件・1862=18歳：

薩摩藩士密航1865=21歳：

毛利敬親の侍医で日本で初めて種痘を行った蘭学者青木周弼の弟で萩藩医青木研蔵(後の宮廷大典医)の娘と結婚、婿養子となって土族入り、周蔵と改名。{明倫館}で学んだ後、

大政奉還・1867=23歳：

藩命で長崎に赴き医学を修め、

明治維新・1868=24歳：

さらに、藩留学生としてプロシアに派遣され、

医学から政治、経済学に無断転科して問題となるも、来独中の山縣有朋に談判して解決したが、北ドイツ留学生総代となって、在独留学生の専攻科目決定に介入し、物議をかます。

廃藩置県・1871=27歳：

日本近代化のためには、専攻を分散することが必要という信念からであって、自ら推奨した人物には、のちに林業、製紙、ビール、製絨などの分野で成功した者も多い。

明治6年政変 1873=29歳：

帰国すると、木戸孝允の推薦で外務省に入省、外務一等書記官となるが、すぐに、ドイツに派遣されて、

佐賀の乱・1874=30歳：

*駐独代理公使から、最初の専任駐独公使となり、プロセイン貴族の令嬢エリザベトと知り合う。

初の民間工場1875=31歳：

オーストリア・ハンガリー帝国公使を兼任。エリザベトとの結婚を決意し、

西南戦争・1877=33歳：

外務省の許可を得るものの、青木家から妻との離婚の承諾を得られず、自ら新しい夫を見つけ、その結納金を支払うこと3回、品川弥二郎らにも助けられてようやく再婚、以後、外交活動が有利となる。

大久保暗殺・1878=34歳：

オランダ公使も兼任している。

琉球処分・1879=35歳：

妊娠中のエリザベトを連れて帰国し、条約改正取調御用係となったが、

.....1880=36歳：

井上馨外務卿の下で、再び駐独公使となり、ベルリンに赴任、

明治14年政変1881=37歳：

新体詩抄・1882=38歳：

伊藤博文のヨーロッパでの憲法調査を助け、ベルリン大学のグナイスト、ウィーン大学のシュタインの両法学教授を斡旋している。

内閣発足・1885=41歳：

オランダ、ノルウェー公使をも兼務したが、

帝国大学始・1886=42歳：

*外務大輔として帰国し、条約改正議会副委員長となる。第1次伊藤内閣の井上馨外相のもとで外務次官となり、全権委任状を下付されて条約改正会議に出席するなど、井上外交を支える。

初の対等条約1888=44歳：

黒田内閣の大隈重信外相のもとでも外務次官を務め、

帝国憲法公布1889=45歳：

条約改正全権委員として条約改正交渉の中心人物として活躍。大隈がテロで遭難すると、第1次山縣内閣の外相に就任、閣議に“青木覚書”を提出して承認を受け、イギリスとの条約改正交渉に当たる。

足尾鉍毒始・1891=47歳：

第1次松方内閣でも留任し、大隈案を大幅に修正、対等条約を目標に奮闘するが、大津事件が起こって引責辞任、新条約調印寸前で挫折する。

大本教・1892=48歳：

三度駐独公使となり、

郡司千島探検1893=49歳：

ベルギー公使を兼任、

日清戦争始・1894=50歳：

*駐英公使兼任となり、陸奥宗光外相と協力して条約改正交渉に当り、苦闘の末、日清戦争開始直前に日英通商条約の調印に成功。

子規句歌革新1898=54歳：_帰国し、山県内閣で再度外相となり、

ピアノ国産化・1900=56歳：_<義和団の乱>への列強の動きを敏感に察知し、積極的に介入<北清事変>。枢密顧問官を経て子爵となる。

日露戦争終・1905=61歳：

満鉄発足・1906=62歳：

_駐米大使となり、移民問題の解決に当たるも、

韓国反日暴動1907=63歳：

アラキ創刊・1908=64歳：

*越権行為ありとして召喚され帰国、枢密顧問官になって、

第一次大戦始1914=70歳：_没した。